

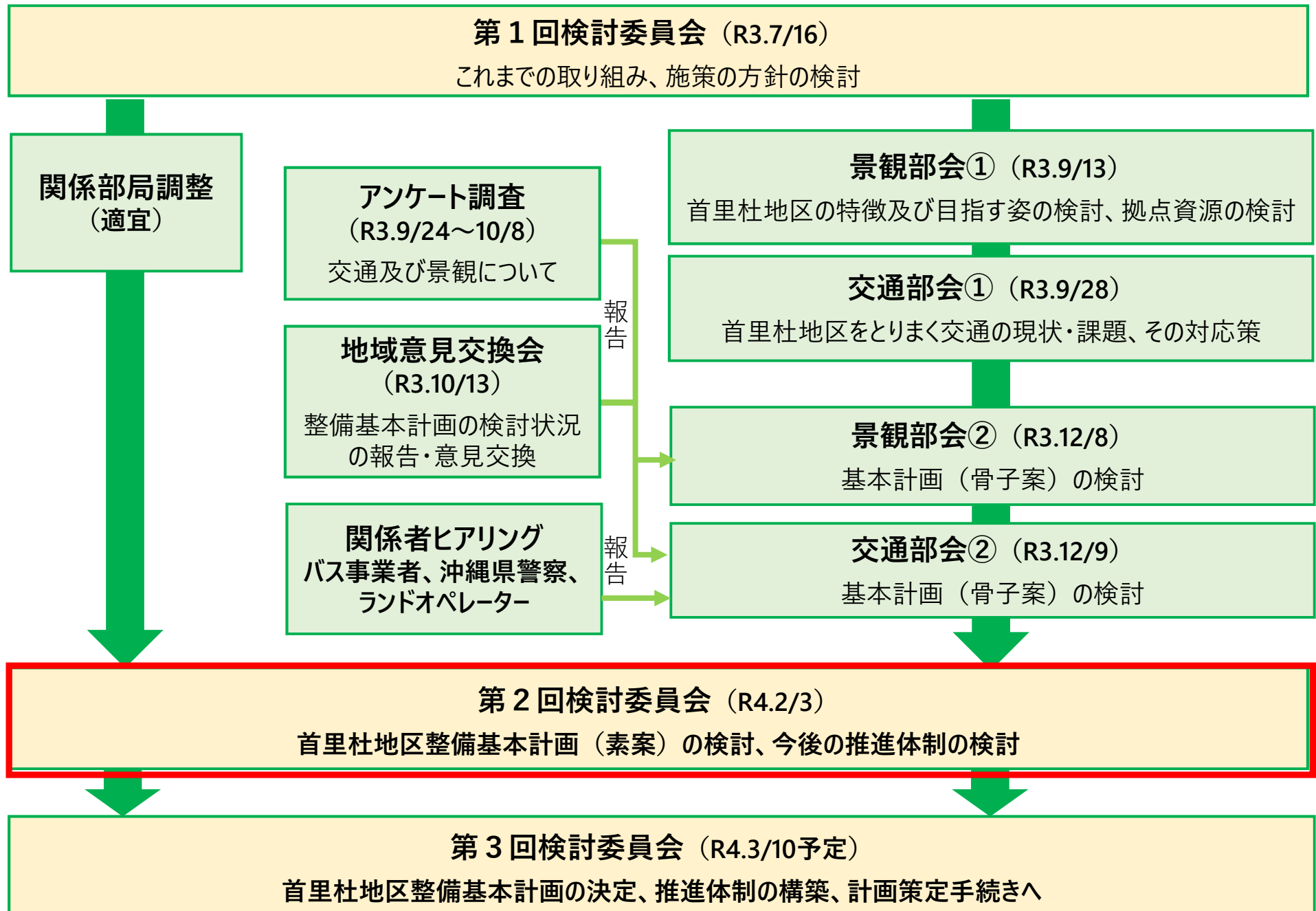
# 首里杜地区整備基本計画検討委員会

## 第 2 回

### 【資料 1】第 1 回検討委員会および各部会での議論（概要）

1. 第 1 回委員会後の流れ
2. 検討委員会・部会等での主な検討内容
3. 今後のスケジュール

# 1.第1回検討委員会後の流れ

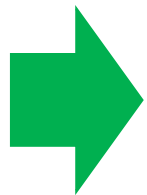


## 2. 検討委員会・部会等での主な検討内容

### ① 首里杜地区の特徴について

#### 首里杜地区の特徴

- 首里杜のキーワードは、信仰・御嶽、樋川など。景観資源としてはスージ・道、広場、石垣などが重要。戦後の赤瓦施策などのまちなみ形成の取り組みもある。（委員会）
- 眺望点や外からみた首里の視点も追加が必要。「水」は、暮らしや産業と結びついた情景であることが重要。祭りや伝統芸能はそれを生み出し共有する舞台が重要。ひとつの資源・地点にも歴史的経緯があり、各時代が織り交ざった風景が首里である。（景観①）
- 「文教都市」であることは戦後の首里を考える上で重要。戦跡も含めた近現代の資源の拾い上げが必要。（景観①）
- 近現代の資源や、歴史文化にとらわれずに地域が身近に感じている資源も重要で、今後、これらを拾い上げるための調査や検討を行える仕組みが必要。（景観①）



第2章の「1. 特徴及び目指す姿」を整理

（景観部会①で内容を議論し、修正案を景観部会②および交通部会②で報告済み）

資源の拾い上げについては、第4章「1. 推進体制」で協議会の役割として整理

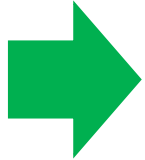
（本日の委員会で提示）

## 2. 検討委員会・部会等での主な検討内容

### ②基本方針（1）に関する課題・方向性について

#### 課題

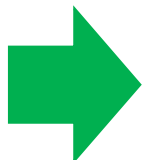
- 課題①の「都市開発」は違和感がある。（景観②）
- 景観は守っていくべき地域の財産であることを明記してほしい。（景観②）



第2章の「2.まちづくりの課題」を整理  
（部会②までの意見を踏まえ、修正案を本日の委員会で提示）

#### 方針（1）について

- 首里は戦後復興で建てられたまちなみであるため、「歴史的なたたずまい」という表現はそぐわない。戦後も含めて尊重できる表現にしたほうがよい。（委員会）
- 湧水は首里の基盤的特性。具体的な対策の検討を。また、龍潭広場ポケットパークは整備の好例で、このような整備を進めてほしい。（景観①）
- 「集落形態の保全」は、保全というより、昔ながらの集落をイメージして修景することだと思うので、適切な表現を。（景観②）
- 行政の主導がなくとも、首里はシビックプライドがある地域である。（景観②）



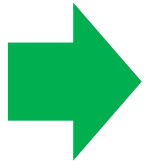
第2章の「3.基本方針及び施策体系」を整理  
（部会②までの意見を踏まえ、修正案を本日の委員会で提示）

## 2. 検討委員会・部会等での主な検討内容

### ③基本方針（２）に関する課題・方向性について

#### 方針（２）について

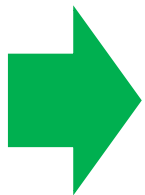
- これから新たに生み出されていくものや、失われたが復元が必要なものも対象としたい。（景観①）
- 「歴史文化まちづくりの推進」は本計画全体の方向性であり、一施策の位置づけではない。（景観②）
- 拠点資源だけではなく、その周辺も含めた修景等の取り組みが必要。（景観②）
- 首里の魅力をさらに深めていくために、生活経験や民俗知といった目に見えない資源を調査することも重要。調査と地域内の交流を兼ねた仕組みがあるとよい。（景観②）



第２章の「3.基本方針及び施策体系」を整理  
（部会②までの意見を踏まえ、修正案を本日の委員会で提示）

#### 整備対象について

- 整備対象は絞り込む必要がある。宿道やスージなど機軸を定め、その途中や近くにある井泉などを広場化して地域のよりどころとすることが望まれる。（景観①）
- 宿道だからとすべてを整備するのではなく、観光客や住民が歩く範囲を踏まえて必要なところだけ整備することも考えられる。（景観①）
- 整備計画図等にかかれていない拠点の整備等について、新たに議論できる体制があるとよい。（景観②）



第３章の「４.テーマ（エリア）別実施プログラム」を整理  
第４章の「１.推進体制」を整理  
（いずれも部会②までの意見を踏まえて、修正案を本日の委員会で提示）

## 2. 検討委員会・部会等での主な検討内容

### ④基本方針（3）に関する課題・方向性について

#### 方針（3）について

- 県が観光振興基本計画を改定中であり、量から質への転換や、レスポンスブルーツリズム（責任ある観光）を推進している。首里でも対象者を絞って地域に関心のある人に歩いてもらうべき。（委員会）
- ターゲットマーケティングの視点から、誰でも生活域に入るような誘導をしないことが重要。関心のある人のみが訪れる仕組みを検討する必要がある。（景観①）
- 交通施策は、「暮らし」の視点が弱い。（景観②）／交通施策は暮らしと観光の「両立」というよりも、「暮らしのキャパシティまでの観光」という書きぶりになっている。（交通②）
- どのように周遊させようとしているのか見えない。（景観②・交通②）

#### 必要な取り組み

- 交通問題は交通の枠組みだけでなく、Maas等の旅行商品の中での対策も考える必要がある。（委員会）
- いろいろなモビリティを入れるには厳しい道路空間であり、地域住民や交通弱者、観光客、それぞれのニーズを調査したうえで重ね合わせるのがよい。（交通①）
- 歩く人だからこそ楽しめるインセンティブが必要。龍潭線は歩いて楽しめる空間になっていない。（交通①）
- 路線バスが多い中で同じルートにコミュニティバスを通すのは難しい。観光のための周遊バスやパーク＆ライドにつなげる目的であれば可能か。（交通②）



第2章の「3.基本方針及び施策体系」

第3章の「1.計画期間における到達目標」～「4.テーマ（エリア）別実施プログラム」を整理  
（いずれも部会②までの意見を踏まえて、修正案を本日の委員会にて提示）

## 2. 検討委員会・部会等での主な検討内容

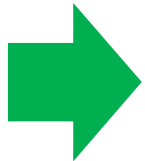
### ⑤ 推進体制について

#### 協議会について

- 歴史まちづくり法に基づく協議会設置の可能性も本委員会で議論したい。(委員会)  
→ 歴まち法に基づく協議会は那覇市庁内で議論中であり、本計画に書ける段階ではない。(景観②)
- 10年を超えて長期的視野でまちづくりを議論できる枠組みにしてほしい。(委員会)
- 今回立ち上げる協議会が、歴まち協議会や景観協議会といった法定協議会を兼ねることも考えられるが、まずは、話し合う場を立ち上げることが重要で、優先度の高い取り組みである。(景観②)

#### 協働・多様な主体の参画について

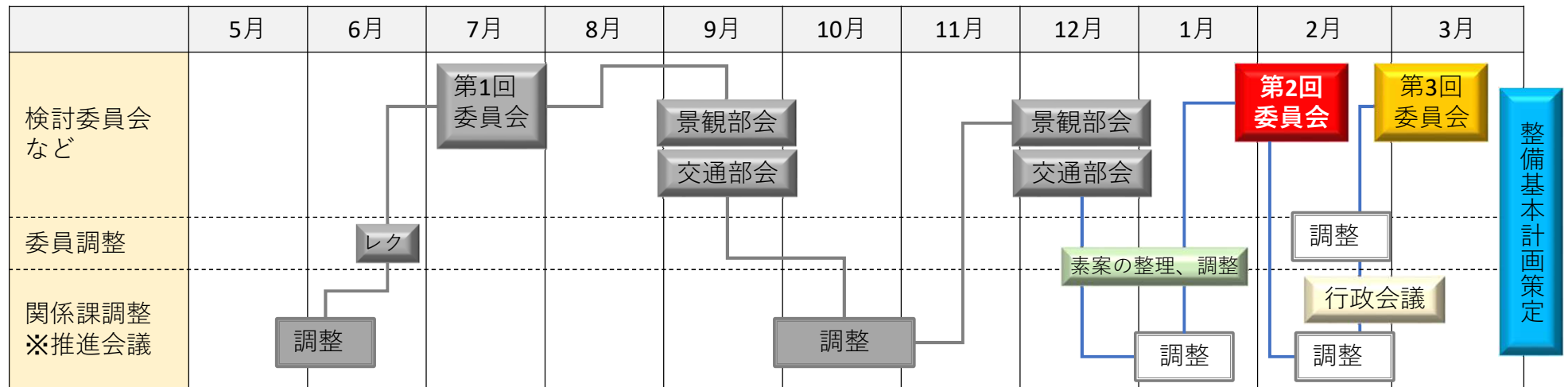
- 協働の景観づくりの書きぶりが、住民の関わり方が受動的に感じる。(景観②)
- 住民が自分たちの役割や取り組みがイメージしやすいよう表現を工夫してほしい。(景観②)
- 地域団体と大学が協働で進めている取り組みもあり、そのような取り組みを後押ししてほしい。(景観②)
- 中長期的な目線での手法として、アーバンデザインセンターのような公民学連携が有効では。学生が主体となってトライ&エラー、チャレンジをサポートする枠組みがあってもよい。(交通②)



第4章「推進体制」を整理

(部会②までの意見を踏まえて、本日の委員会で提示)

# 3.今後のスケジュール



No	開催月	会議名	議論テーマ、検討事項（予定）
1	R3.7/16	首里杜地区整備検討委員会①※開催済	• これまでの取り組み、施策の方針の検討
2	9/13	景観部会①※開催済	• 首里杜地区の特徴及び目指す姿の検討、拠点資源の検討
3	9/28	交通部会①※開催済	• 首里杜地区をとりまく交通の現状・課題、その対応策
4	12/8	景観部会②※開催済	• 基本計画（骨子案）の検討
5	12/9	交通部会②※開催済	• 基本計画（骨子案）の検討
6	R4.2/3	首里杜地区整備検討委員会②	• 基本計画（素案）の検討、今後の推進体制の検討
7	2月	行政関係会議	• 基本計画（案）の検討、計画の実現に向けた課題、今後の推進体制の検討
8	3/10	首里杜地区整備検討委員会③	• 首里杜地区整備基本計画の決定、推進体制の構築